

トナカイ山のドウオッジ

Duodji boazovári

Duodji from Mt. Reindeer

ふるさかはるか展

Haruka Furusaka exhibition

2014年8月30日[土] — 9月14日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

ご案内

ギャラリー・パークでは、2014年8月30日[土]から9月14日[日]まで、「トナカイ山のドウオッジ：ふるさかはるか展」を開催いたします。

ふるさかはるか(1976~)は、自然素材の観察から生まれる木版画を制作しています。ふるさかは木版画を制作するにあたり、まず版木となる無垢の木の持つカタチやフシ、木目などに関わりながら図案を描いていきます。

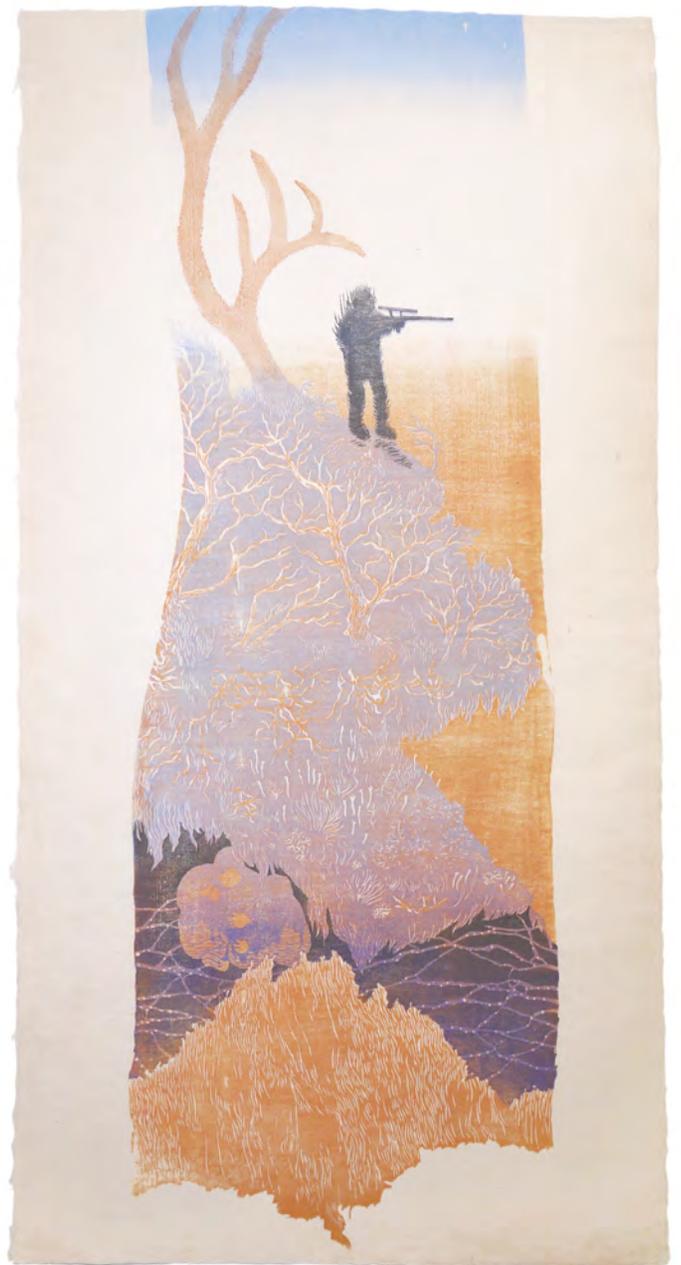
その木版画はいわゆる「掘り進み木版画」とも呼ばれる物で、ひとつの版木を彫って色を刷り、またその版木を掘り進めては刷るを繰り返すものです。最終的に版画が刷り上がった時には版木は最後の刷りの状態に彫られており、後から同じ版画を刷ることが不可能なこの手法は、いわゆる量産・複製可能な印刷としての版画の特徴と相反する要素を持つもので、ふるさかはこれまでに多くこの手法を用いて版画制作に取り組んでいます。また、その版木にのせる絵の具は、身近な土を掘り集めて水に溶き、沈殿させて漉した「土絵の具」を多く使い、淡く不確かにも見える独特の色彩を紙に重ねてゆきます。

時に版木の木目さえもが写し取られた画面には、ふるさかが見て・聞いて・感じた経験を基に、木に向き合う制作過程にあった偶然や必然、土や木や紙という自然素材との関わり合いなどの様々な要素が交錯し、そこにひとつの画を結びます。

ふるさかはこれまで、3度に渡ってノルウェー北極圏・ラップランド地域に暮らす北欧の先住民族であるサーミの人びとを訪れています。時には2ヶ月に及んで関わり・暮らし、たくさん話しをするなかで強く感じ取った「自然から受け取った素材の形を借りて自然に還す」というサーミ人の美学・哲学は、身近な自然素材に必要な最小限に関わり、その要素を最大限に用いるふるさかの制作姿勢と重なるものです。

本展では、なかでもトナカイの遊牧生活を営む彼らと関わりの深い手工芸品ドウオッジ(Duodji)にまつわる言葉を書き留めたものを基に、木が版木となって再び木に戻る「掘り進み」による水彩木版画による作品を中心に発表します。

ドウオッジにみるサーミの美学・哲学に習い、書き留めた言葉を基に、日ごろから収集している土や木を用い、細やかな彫りによる線の集積によるおおよそ10点の木版画とともに、その版木、土絵の具のインスタレーション、トナカイの声、ブーツなどを展示します。



【広報画像01】

「トナカイ山のドウオッジ」展示予定作品

DM使用画像

トナカイ山のドウオツジ

Duodji boazovárja

Duodji from Mt. Reindeer

ふるさかはるか展

Haruka Furusaka exhibition

2014年8月30日[土] — 9月14日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、【 info@galleryparc.com 】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 トナカイ山のドウオツジ

出品作家 ふるさか はるか

関連HP <http://www.harukafurusaka.net/>

会期 2014年8月30日(土) — 9月14日(日)

11:00~19:00

※月曜日休廊・金曜のみ20:00まで開廊・最終日18:00まで

主催 Gallery PARC

料金 無料

展示内容 【水彩木版画・インスタレーション】

版画家・ふるさかはるかによる木版画・インスタレーション。ノルウェー北極圏に暮らすサーミの人々に関わるなかで、ふるさかが書き留めた手工芸品ドウオツジ(Duodji)にまつわる言葉を基にした木版画およそ10点を展示。また、「掘り進み」と呼ばれる独特の版画制作の版木をあわせて展示。

遊牧民サーミの人と民具より

ノルウェー北極圏。冬には太陽が昇らず-40℃にもなる厳しい自然の中で、人がどうやって自然と付き合いながら暮らしているのか。— 北欧の先住民族サーミの人びとと共に過ごす中で、彼らのトナカイの遊牧生活と関わりの深い手工芸品ドウオツジ(Duodji)にまつわる言葉を書き留めてゆきました。彼らの言葉から気付いた「自然から受け取った素材の形を借りて自然に還す」というドウオツジの美学にならい、日頃拾集してきた土を絵具に使った木版画を発表します。

会場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48

三条ありもとビル

【Tel&Fax】 075-231-0706

【Mail】 info@galleryparc.com

【HP】 <http://www.galleryparc.com>

アクセス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマーブル]店舗内2階

問い合わせ Gallery PARC (正木・永尾)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48

三条ありもとビル[ル・グランマーブル カフェ クラッセ] 2F

【Tel&Fax】 075-231-0706 【Mail】 info@galleryparc.com



【広報画像02】
掘り進みによる版木

DM使用画像

トナカイ山のドウオツジ

Duodji boazovári

Duodji from Mt. Reindeer

ふるさかはるか展

Haruka Furusaka exhibition

2014年8月30日[土] — 9月14日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

ふるさかはるか

身近にとれる土から絵具をつくるなど、自然素材の観察から生まれる木版画を制作。フィンランド、ノルウェーなど極北での滞在制作をはじめ、国内外のアーティスト・イン・レジデンスや大学、国際会議などで、日本の風土で育まれた水彩木版画技法のデモンストレーションや作品発表を多数行う。2010年より「木版画アトリエ空中山荘」を立ち上げ、水彩木版画教室を開講。2012年にはフィリピン山岳地方の学校での環境教育プログラムで、土絵具と木版画によるワークショップや展覧会を開催するなど、木版画の自然素材を通して異なる時代や風土を読み替える作品・場づくりを展開している。

ホームページ www.harukafurusaka.net/

1976 大阪府生まれ

1999 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業

木版画アトリエ空中山荘 主宰 大阪市在住

主な個展

2002 "Freezer", ヴァーサ市立図書館, ヴァーサ, フィンランド

2004 "FROZEN BUSH", ギャラリーなつかb.p, 東京

2007 "重力のゆくえ", ギャラリーなつかb.p, 東京

2011 "ベスカエダス山とトナカイの数え方", 中之島4117ポストギャラリー, 大阪

2012 "Twinkles on Mountains", Cafe by the Ruins, バギオ, フィリピン

主なグループ展

2003 "インディペンデントCASO展", 海岸通ギャラリーCASO, 大阪

"Under trial", 海岸通ギャラリーCASO, 大阪

2006 "Moku Hanga", Pont Aven School of Contemporary Art, ポンタヴェン, フランス

2006 "Saiohin", 金戒光明寺西翁院, 京都

2007 "USM International Print Exhibition", Gallery of Cultural, Invention and Innovation, Universiti Sains Malaysia, ペナン, マレーシア

"Asian Arts Week", Community Gallery, Columbia Museum of Art, サウス・キャロライナ州, アメリカ

"International Printed Arts Exhibition 2007", Hat Yai Art Gallery, ハジャイ, タイ

"Rentas Sempadan: Peneng International Print Exhibition", Penang State Art Gallery, ペナン, マレーシア

"A Time and a Place: IMPACT 5", Deco Gallery, タリン, エストニア

2009 "Surimono / international: IMPACT 6", University of the West England, プリズトル, イギリス

2011 "オルボシュ山の一夜", gallery yolcha, 大阪

"photograph", C.A.P. Y3, 神戸

2013 eno-co-labo vol.1 "木版風景:木はわたしの鏡", 大阪府立江之子島文化芸術創造センター, 大阪

アーティスト・イン・レジデンス

2002 Ateljé Stundars, ソルフ, フィンランド

2003 Art center in Máze, マーツェ, ノルウェー('05 '11)

2007 アーティスト・イン・レジデンス・アット・伊賀2007, 三重

コレクション

Svenska Österbottens Förbund, フィンランド

University Sains Malaysia, マレーシア

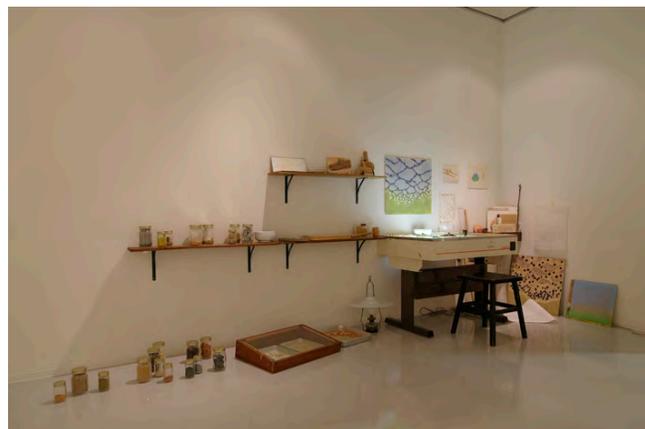


【広報画像03】

完成した土絵の具は色ごとに小分けされて収集されている

eno-co-labo vol.1 "木版風景:木はわたしの鏡"展示風景

撮影:草木貴照



【広報画像04】

「eno-co-labo vol.1 "木版風景:木はわたしの鏡"」展示風景

撮影:草木貴照

トナカイ山のドウオッジ

Duodji boazovárii

Duodji from Mt. Reindeer

ふるさかはるか展

Haruka Furusaka exhibition

2014年8月30日[土] — 9月14日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

トナカイ山のドウオッジ

ふるさかはるか

真冬の北極圏、ノルウェー・フィンマルク県マーツェ村へ。太陽の昇らない世界とトナカイ遊牧民サーミの人びとに出会った。オーロラをたくさん見、マイナス40度の世界を歩き、太陽は今どこを照らしているのだろうか、などと想像しながら過ごした。

エレンさんがトナカイの毛皮でブーツを作ってくれた。これをもたらした時、ドウオッジ 手工芸- というサーミの言葉を覚えた。

初めてマーツェを訪れてから10年余りの間に、サーミのことを少しずつ知ることになった。そば置いて愛でてきたトナカイのブーツから、ドウオッジを忘れないよう言われ続けてきたように思う。初めは太陽のでない自然環境を見てみたくて訪ねたけれど、今では人がどうやって厳しい自然と付き合いながら暮らしているのかに興味が湧くようになった。

スキーはサーミが発明したという説がある。サーミはスカンジナビア半島北部に暮らす先住民族。古くからトナカイの遊牧を基盤に生活してきた。国境を持たなかったけれど、周囲の国に国境を引かれ、サーミの住む土地は4つの国に分けられた。

サーミ語はウラル語族に属している。かつての同化政策でサーミ語を話すことを禁じられたこともあり、今ではサーミであることを隠す人も主張する人もいる。マーツェは人口のおよそ100% がサーミの村。だから私はサーミであること誇りに思っている人ばかりに出会ってきた。

北極圏の白夜の夏は短い。沈まない太陽が黄金色に輝き、蚊や魚や植物が一斉に繁殖期を迎える。トナカイの群れは、夏には北の海岸へ、冬になると南の内陸へと移動する。トナカイ飼いの人びとはその群れを追って遊牧する。トナカイ飼いは小屋を点々と所有していて、そこを拠点に山々を移動し、ツンドラの大地にテントを張って野営する。

夏になるとトナカイ飼いは、幼いトナカイの耳に切り込み印をいれ、所有者を識別する。円形のフェンスの中にトナカイの群れを追い込み、印のないトナカイを仕分けする。刻印作業はたいいてい、黄金色の太陽が輝く真夜中に行われる。昼間の気温は高すぎて、トナカイが弱ってしまうらしい。トナカイ飼いは昼夜を問わずトナカイの動きと天候を読んで生活する。円形のフェンスの近くにテントを張り、親戚一同が集合してトナカイの仕分けを手伝う。大人も子供も並んで長い布を持ってトナカイの群れに近づき、フェンスの中へと追い込んでゆく。フェンスの中では、リーダーが子供に耳の刻印を手ほどきする。サーミのすべてが次の世代へ受け渡されていく光景。追い込まれたトナカイの群れの熱気がむっと立ちこめ、切った耳の欠片が地面に散らばっている。

言い伝えや民話を探して人びとから話を聞いているうちに、彼らの話す言葉そのものがとても面白く、サーミの生き方や自然の中での振る舞いをよく表しているように思えてきた。家にあるドウオッジをみせてもらいながら話を聞いて回り、彼らの言葉を元に版画を作ることに決めた。

彼らの言葉から気づいたことは、彼らの誰もが自然に打ち勝とうなどせず、自然の中に身を隠し、静かに身を守るような行動をとるということ。

トナカイや白樺を使った手づくりのドウオッジは、素材の源となる自然とそれを使う人との間にある。道具でありアイデンティティを表す芸術でありながら、厳しい自然環境から人の身を守る。武器ではない。「自然から受け取った素材の姿を借り、自然のあるべき形に還す」というドウオッジのつくり方は、恐るべき自然の中に身を置き生きてきた、サーミの守りの哲学の表れなのだろう。



左列上から:【広報画像05・06・07・08】

2011年 "オルボシュ山の一夜"展示風景

・《デジャヴゥまでの地図》 水彩木版・土・和紙 2011

・《Feel Me Daphne》 水彩木版・土・和紙 2009

・《山々谷の夜道》 水彩木版・木・土・和紙・コンパス 2011

・乾かしてひび割れた土絵の具

右列上から:【広報画像09・10・11】 *撮影:草木貴照

・《Night Scene From a Height》 水彩木版・土・和紙 2013

・《Night Scene From a Height》版木

・eno-co-labo vol.1 "木版風景:木はわたしの鏡"展示風景